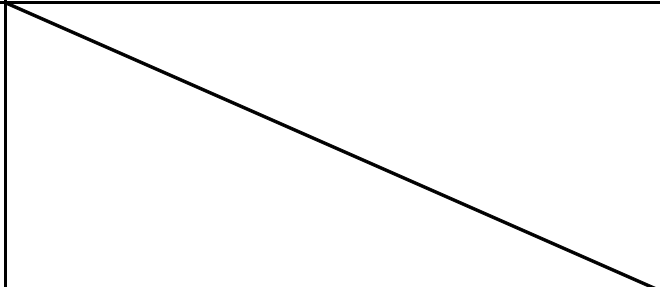


# 令和4年度学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立加賀聖城高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果 ( ) は昨年度	分析（成果と課題）及び改善等
1 GIGAスクール構想による1人1台端末の効果的な活用に取り組み、生徒の学校生活ならびに授業満足度を高める。	① 授業や学校環境のユニバーサルデザイン化という観点を踏まえ、生徒の基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	授業がわかりやすいと答えた生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	B 96.1% (96.0%)	授業内容や教員の指導に対して肯定的であり、ほとんどの生徒が「授業が分かりやすい」と答えている。今後もさらに生徒の興味関心を高める工夫を行うとともに、学習意欲の向上に取り組んでいく。
		授業のユニバーサルデザイン化により、生徒の学習環境が改善したと答えた教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A 100% (66.7%)	生徒が見通しを持って学びやすい学習環境構築を目的として、授業のユニバーサルデザイン化を行っている。そのため、個々の生徒に応じたきめ細かな授業が実践出来ており、生徒の授業満足度は高い。
		定通連携の公開授業も含め、他の授業を見学した回数の平均が A 8回以上 B 6回以上 C 4回以上 D 4回未満	後期 実施予定	
	② 1人1台端末の効果的な活用に向けて、ICT機器を活用した工夫された授業を展開し、生徒の学習効果の向上を目指す。	Chromebookを効果的に利活用した授業を行なった教員の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	D 33.3% (77.7%) 前年度はICT機器全体で統計	パソコンも含めたICT機器全体を利活用した授業実践では昨年度と大差ない状況である。しかし、Chromebookを活用した生徒の主体的学習では利活用状況は非常に低い。学校全体で、効果的な利活用推進に向けて取り組んでいく必要がある。



重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果 ( ) は昨年度	備考	
3 生徒の能力や特性に応じた個別の支援計画を作成、共有、活用することで生徒の進路実現の充実を図る。	① 生徒が、自己の能力・適性を理解し、学習意欲の向上を図れるように、資格取得に向けた指導を行う。	検定・資格取得・コンクール出展に取り組んだ生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	後期  実施予定	/	
	② 卒業までを見通した指導計画に基づき、生徒各人の能力・適性に応じた支援・指導を行う。	自己の進路に関する関心が高まったと回答した生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B 71.4%  (70.6%)		定通企業ガイダンスだけでなく、「先輩と語る会」や市内企業見学の実施など進路セミナーを通して、自己の進路に関する関心が高めている。日頃の授業や面談等において、具体的な進路選択を目指していく。
	③ ハローワークや地域の企業等と連携して、生徒の就業の支援・指導を行う。	就業率（アルバイトを含む）が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	D 42.8%  (64.5%)		調査時の就業率は42.8%と半数以下となった。新型コロナウイルス感染症の影響でアルバイトを控えている生徒もいるが、企業等と連携を深め、生徒の自己実現力を高めるためにも、就業率を上げていく必要がある。
4 校務分掌の適切な割り振りや業務の平準化を進め、教材研究や生徒理解の充実を図る。	① 職員間の横の連携を強め、積極的に協働し、生徒理解に取り組む時間を確保する。	個々の生徒について、より理解が深まったと感じる教員が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	後期  実施予定	/	